

(様式第4号)

第7回上田右岸地域協議会 会議概要

1 審議会名	上田右岸地域協議会
2 日時	令和4年10月24日 午後1時30分から
3 会場	豊殿地域自治センター 多目的ホール
4 出席者	天田委員、上原委員、永本委員、小川委員、金井委員、窪田委員、駒崎委員、小林委員、塩入委員、清水悟委員、竹内委員、田中委員、橋詰委員、平澤委員、宮下委員、柳澤委員、渡辺委員
5 市側出席者	【事務局】横澤豊殿地域自治センター長、星野中央地域振興政策幹、小山西部地域振興政策幹、馬場豊殿地域振興政策幹、片山地域内分権推進担当係長、腰原地域内分権推進担当主査、近藤地域内分権推進担当、唐澤地域内分権推進担当主査、芳池地域内分権推進担当主事 【上下水道局】堀内上下水道局長、緑川経営管理課長、橋詰課長補佐兼経理担当係長、関上水道課長、小井土上水道担当政策幹、若林施設整備係長
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和4年10月28日

協議事項等

次第

1 開会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 市からの報告等

『上田・長野間における水道事業広域化の検討について』

上水道課から資料を基に説明

以下、質疑応答

(委員)資料5の50年後の試算は設備投資等も含めたものか。

(上水道課)10月の広報うえだにも記載があるが、将来の減価償却、施設の更新等全てを含んだ時の料金を示したものである。

(委員)資料3の③で、“国からの補助金ありき、広域化の結論ありきで進めていないでしょうか”という質問に対し、“シミュレーションにより検討した結果をお示ししてある”という説明だが、話が噛み合っていない。

(上水道課)広域化については国からの補助金ありき、広域化ありき、という話ではない。ただし、今お示ししてある財政シミュレーションのメリットとしては、補助金が入って初めて成り立つものではある。

(委員)基本的には補助金がないところの事業は成り立っていないということだと思う。水道事業は公共で支えていかないといけないのではないかな。民間委託は簡単に思いつくが、一定程度は公共でしっかり支えないといけない部分は必ずある。広域化すれば財源も増え、職員配置も効率的にできるかもしれないが、災害が起きた時、それぞれの地域に合わせてきめ細かく対応していくためには、小さな単位で担当できる水道事業があった方が、災害にも強いのではないかな。一方的に広域化だけで検討するのではなく、上田市の場合はメリットがあまりないと感じるため、いろいろな視点で検討していただきたい。

(委員)水道事業民営化で、宮城県が売却と新聞で掲載されていたが、それと比較して説明をお願いしたい。

(上水道課)宮城県で行うコンセッション方式は、施設は公共団体が引き続き所有する。水道事業の運営権(宮城県の場合 20 年間)を民間企業にお任せするもの。1 社ではなく何社もがグループになっている。全て水道事業を売り渡すのではなく、運営権だけを渡して 20 年後には返ってくるのか、違う会社に引き続き委託するか、となる。上田・長野間広域化の検討メンバー全員の総意として、20 年間運営権を引き渡してしまうと、技術力が無くなってしまふのでは、という懸念を大きく持っている。公共の範囲は確実に守るべきという前提である。宮城県のやり方(コンセッション方式)は、研究会の広域化の検討においては取り組まないという考えである。

(委員)上水道と下水道を一緒に考えるわけにはいかないのか。

(上水道課)水道事業は地域の皆さんが作りあげたものを村が引き取り、町に合併、最後は上田市が吸収したという成り立ちで運営されている。

下水道事業は政策的なものが大きく、汲み取り式が主流だった時代、周辺の水質改善を目的に行政が主体になって始まった流れがある。補助金が手厚く付くのと、一般会計からの繰入金歳入として含まれている。単純に人が半分減るから料金が倍といった水道事業のような考えではなく、その分の補助金制度がもっと上がる可能性があるので、試算するのは難しい事業である。水道事業も下水道事業も、お客様と一対一の事業なので、将来の人口減少社会の中では、施設の余剰や、管路が太すぎて流れる量が少ないといった課題は多々出てくると予想している。下水道事業については補助金に大きく左右されるため、シミュレーションが難しい。

(委員)上水道料金と下水道料金は同じくらいの金額を支払っている。上水道料金と下水道料金という形になるのか。

(上水道課)各家庭にメーター器がついており、検針して、水道の使用量を下水道に流した量と判断している。場合によっては井戸水や温水器を付けている家庭は、別にメーターを付けて流す量を報告いただき、下水道料金に換算している。上下水道一体での請求ではなく、水道料金、下水道使用料としている。水道を使っているが、下水管に流していないお客様もあり、その場合は同量ではないので水道料金と下水道使用料は分けている。

(委員)水道局で勤務をしていたが、当時は市から水道局へ出向する人と、水道局独自で採用された人がいた。私は水道局採用で、現場から入り技能技術関係部門で働いていた。

民間委託部門が多くなってきたという流れがあり、検針も職員が行っていた時代もあるが、今は料金部門一括で民間業者に委託されている。入局当時は水道管破裂や故障修理によく周っていたが、今は上田市の指定事業者をお願いしている状況である。技能部門が民間業者に任されてきた流れもあり、水道局での雇用が無くなってきた。ただ、水道は 24 時間のライフラインであるので、台風の時などは、まずは職員で対応するが、民間業者の手も借りないと対応しきれない部分もある。そういう時に経験のある職員が指示をしていかないと、民間業者も動けない状況がある。

水は生活するうえで一番大切なライフラインだと思っている。広域化されると民間委託される部門は増え

と思うが、なるべく直営を堅持して公共性を保っていただきたい。専門知識がないと対応できない部門も多くあると思うので検討願いたい。

市営水道のメリットが少ないのでは、という質問もあったが、メリットが無ければ広域化を止める、という決断も必要ではないか。また、いろいろなシミュレーションをされているが、今後は稼働率が低かったら小さな施設にして、更新していくことも検討するのはどうか。今の施設を維持することを前提としたシミュレーションだと思うので、稼働率に見合った施設にして、更新した場合のシミュレーションも必要だと感じる。

広域化されたから人材が保たれるかという点、疑問である。市として必要な人材を育成していくことが大切である。

(会長)事務局で委員さんから出た意見を集約してもらい、意見書を作成し、皆さんにお諮りしながら提出するという段取りで進めたい。

日本では水道水が飲めることが当たり前ですが、世界全体を見ればそのような国は非常に少ない。196 か国中9か国だと言われており、アジアでは日本のみである。

市の課題として、これから市民全ての皆さんの安定的な水の供給を行うことが必要となる。その水源確保のために旧真田町にある、つちや水源や滝の入水源について、合併以降、何年間も地元の方と協議やお願いをする中で、水源の水を利用できる権利を確保させていただいている。私も議員時代、局長が毎晩のように旧真田町に伺っているのを見ている。ご承知の通り水道事業は原則として、市町村が経営することになっており、現在上田市は上下水道両方の事業を行っている。

今回のように、水道事業のみのことを考えているのでは十分ではない。下水道事業も検討課題に入れる必要がある。

また、今後、命の水を安定的に確保するためには、「効率化」を必要以上に重視して、水道事業の広域化を求めていくことには慎重さが求められる。広域化による50年後の将来の見通しは机上ではいくらでもできる。そこには市としてこれまで行ってきた水源確保等の多くの努力や、今後もおいしい水の提供のために、継続的に行なわなくてはならないし、努力する方向や今後の計画、展望は十分ではないと感じる。

近年多発する大規模災害や渇水時などの緊急時の支援体制については、水道事業が各自治体で行われていても、相互の送水や、今までも行っている他地域との応援協定などを確実に行って、災害時の対応の検討をしていくことは当然である。

今回の水道事業広域化の検討について、3つの案が考えられる。将来に禍根を残さないように、時間をかけて十分に検討することを求めたい。

①今回示された、長野市、千曲市、上田市の水道及び坂城町で設置した、「上田長野地域水道水事業広域化研究会」で検討していく方法。

②上田地域広域連合では、ゴミ焼却事業の統合が計画されている。また、し尿処理事業、消防事業、介護保険事業等、広域で事業を行う方が効率的である事業については、今まで日常的に共同作業を行っている。

以上のことから、水道事業の広域化についても、まず上小広域圏で検討することが最低限必要である。水道事業のみ、上田広域の中で一番大きな上田市が抜け駆けするようなやり方で、長野市、千曲市、坂城町と「上田長野地域水道事業広域化研究会」で検討することは、慎重さが求められる。上小圏域の広域連合としての意見も十分にお聞きすることが大事である。

また、市では現在、塩田地域及び川西地域の一部の地域については県営水道の供給地域である。今後は全市染屋浄水場からの水道水に一本化して、水道事業の原則に則って市が経営することが必要である。市営水

道と県営水道の水道料金の統一もできるのではないかと思うので、今後とも時間をかけて協議のうえ、理解を深めながら、上田右岸地域協議会としての意見をまとめて、市に提出したい。

(上水道課)広域化について、単純に上田市の水道がこれから先、安全安心に安定供給を図れることが第一だと考えている。まず上田市として単独で経営が成り立つことが基本であり、その中で1つの基盤強化で、上田市だけでは先が厳しいという状況になれば広域化を1つの検討材料とし、塩田地域の水の供給が厳しいということで県営水道に助けていただいたという部分もある。

1つの方策として、先行して広域化の話をさせていただいていた。上小圏域近隣の皆さんともお話をさせていただき、検討を進めていきたい。県の広域化プランが来年3月にまとまるので、それも踏まえて情報共有しながら上小圏域の中で協力し合って、疎かにすることのないよう進めていきたい。水道事業が先行しているが、下水道事業についても検討していかなければいけないと考えている。

新聞報道でもあったように、上水道についてハード面は国土交通省、水質的な面については環境省に分割するという形が1月の国会で議決されれば令和6年4月以降に体制が変わる予定である。そうすると下水道は国土交通省管轄になるので、そのようなことも踏まえていろいろな形を検討していきたい。

(2)第9回上田右岸地域協議会 11月28日視察先について
行程表(案)のとおり

(3)次回以降の第9期の活動について

- ・調査研究テーマの決定
- ・班分け
- ・今後のスケジュールについて

以下、委員からの主な意見

(委員)第1分科会で高齢者及び交通弱者に対する公共交通機関のあり方について。とあるが、第3分科会にも公共交通について入っているが、重複はよいのか。

(会長)分科会ごと議論をしていく中で重複する部分が出てくると思うが、構わないので自由に議論いただきたい。最終的にはまとめて、市に提言できるものがあれば提言したい。

分科会分けについて第1分科会長を小林委員、第2分科会長を宮下委員、第3分科会長を柳澤委員にお願いしたいと思っている。

それでは委員の皆さんにそれぞれどの分科会に所属していただくか決めていきたい。

—本人の希望により分科会を決定—

第1分科会 天田委員、永本委員、窪田委員、小林委員、清水悟委員、橋詰委員、渡辺委員

第2分科会 小川委員、金井委員、黒木委員、駒崎委員、田中委員、宮尾委員、宮下委員

第3分科会 上原委員、塩入委員、清水万貴委員、竹内委員、平澤委員、柳澤委員

(4)その他

次回

日時 11月28日(月) 視察

場所 ひとまちげんき・健康プラザうえだ駐車場 12時55分集合

4 その他

5 閉会

